

提出された意見とその意見に対する考え方

No	質問該当箇所	意見	意見に対する考え方
1	全般	<p>地球温暖化「説」が行き渡っているがこれは嘘である。しかし、この説を利用する政治・経済活動が実在している。以下は武田邦彦氏の研究からの理由である。</p> <p>①現在、地球は氷河時代であり、間氷期にある。気温は常に上下を繰り返すもので、たまたま過去の研究(1940年までは温暖、1970年まで寒冷、その後はまた温暖)から、1988年の米国上院議会で「今後温暖化する」との演説があり、これが現在の温暖化説につながっている。専門家の研究結果ではない。この時に計算された気温の変化度合いは誤りであった事が後に判明したが、いまだに訂正されていない。</p> <p>②化石燃料を燃やすと二酸化炭素が出ることから、環境団体や原子力推進団体がこの説を強力に推進しており、欧米諸国は、脅威とみなしている日本を含むアジア諸国の経済発展を抑制したい為に、1997年京都会議にてCO2の排出抑制が決まったが、守ろうとしているのは、世界人口比約70分の1である小国、日本だけである。</p> <p>③CO2の排出抑制とは経済発展の抑制であり、これに80兆円の税金を使用している。</p> <p>④世界全体の気温は15年ほど前から、大都市を除きほぼ変わっていない。</p> <p>⑤米国はトランプ大統領によりパリ条約を離脱した為、この規制を行っていない。</p> <p>⑥アルキメデスの原理により、北極海に浮く氷が融けても海水面は上昇しない。</p> <p>⑦太平洋上のツバル諸島は、地盤沈下による住宅地への海水流入があるが、これを地球温暖化のための海面上昇と偽って報道</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。</p> <p>国においては、2050年までにカーボンニュートラルを目指す宣言を行い、脱炭素社会の実現に向けた対策の強化を図るため、「地球温暖化対策の推進に関する法律」を改正し、地方公共団体に対して、二酸化炭素排出量削減の取組目標を「地域脱炭素ロードマップ」として示すなど、脱炭素の取組を強く求めています。</p> <p>本市におきましても、国や県の施策などを注視する中で、「ゼロカーボンシティ」実現に向けた効果的、効率的な取組を検討してまいります。</p>

		<p>されることがある。</p> <p>⑧恐竜時代の地球の温暖化ガス濃度は現在の 10 倍以上。現在は空気全体の 1 %未満。</p> <p>以上より、甲府市への質問：「ゼロカーボンシティ」宣言の取りやめをするのか。この説を利用する経済活動（将来的にやまなし「ゼロカーボンシティ」宣言に繋がるもの）が実在しているが、この活動からどのような利益を甲府市は享受するのか。経済活動の相手先の存在、名称、その授受金額（公金投入金額）、甲府市側（議員、経済界）の受益者等、そしてこれら活動により、甲府市民にはどのような利益があるのか。具体的に明らかにされたい。（この宣言は、将来的に甲府市を破壊する）</p>	
2		<p>今後甲府市としてなさなければならないことへの提言</p> <p>①偏った報道内容に騙されない、正しい科学の認識を市民に促すこと。</p> <p>②特に夏季の異常高温は、コンクリート・アスファルト・エアコンの3点セットによるヒートアイランド現象でもある。過度な都市開発（高層建築物の増加等）を抑制し、空き家問題の解決（取り壊した住宅跡地の緑地化など）が急務である。</p>	
3		<p>二酸化炭素の増加による利点＝光合成（日本一空気のおいしい街、甲府市の実現）</p> <p>二酸化炭素の排出削減は、人間を始めとする動植物の生命活動や、その他経済活動の縮小につながる。結局は、外国にけしかけられた余計なことをせず、日本独自の道を歩くことが、豊かな甲府市（日本）を目指す為の最適解であろう。</p>	